

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年度病虫害発生予報第7号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病虫害発生予報第7号(10月)

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成15年)	発生予想 (平成16年)
カンキツ	ミカンハダニ	やや少ない	やや少ない
カンキツ カキ	カメムシ類	少ない	並

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平成15年よりやや少なく、平成16年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生葉率は4.9%(平成15年:9.2%、平成16年:1.2%)、発生ほ場率は45.0%(平成15年:52.2%、平成16年:20.0%)であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平成15年並か高く、降水量は平成15年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果実に被害が認められない場合は、防除を行う必要はない。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 カンキツ、カキのカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 : 平成15年並、平成16年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、カキの被害果率は1.1%(平成15年:4.2%、平成16年:6.3%)であった。

イ 9月下旬のヒノキにおけるピーティング調査ではチャバネアオカメムシの寄生成虫数は、1地点当たり15.7頭(前5か年平均:13.3

頭)であった。

ウ 9月下旬のヒノキ球果の被害球果率は74.3%、1果当たりの口針鞘数は8.4本と少ない。しかし、一部の地域では25本を超えており、カメムシがヒノキから離脱し始めていると予想される。

エ 8月1半旬～9月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである。
(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 2,207頭(平年：11,980頭、
前年：10,132頭)

ツヤアオカメムシ 794頭(平年：3,958頭、
前年：5,154頭)

オ 8月1半旬～9月5半旬までの集合フェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 21頭(前6か年平均：5,346頭、
前年：25,899頭)

ツヤアオカメムシ 4頭(前6か年平均：1,315頭、
前年：2,456頭)

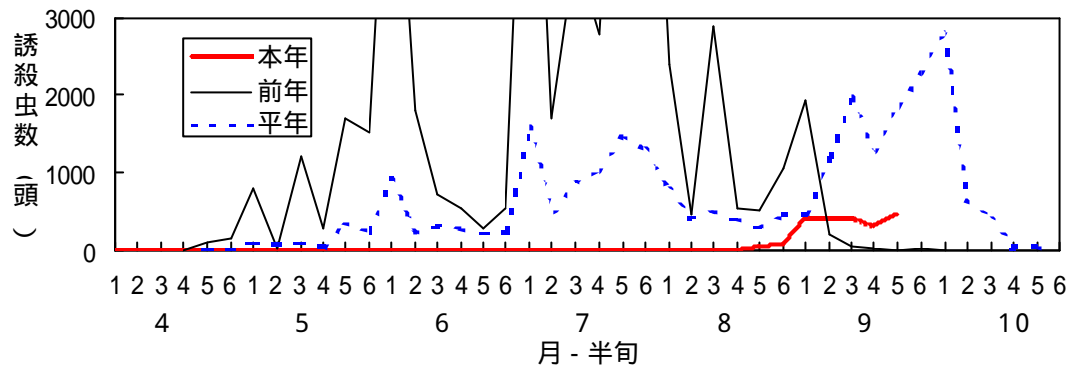
カ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

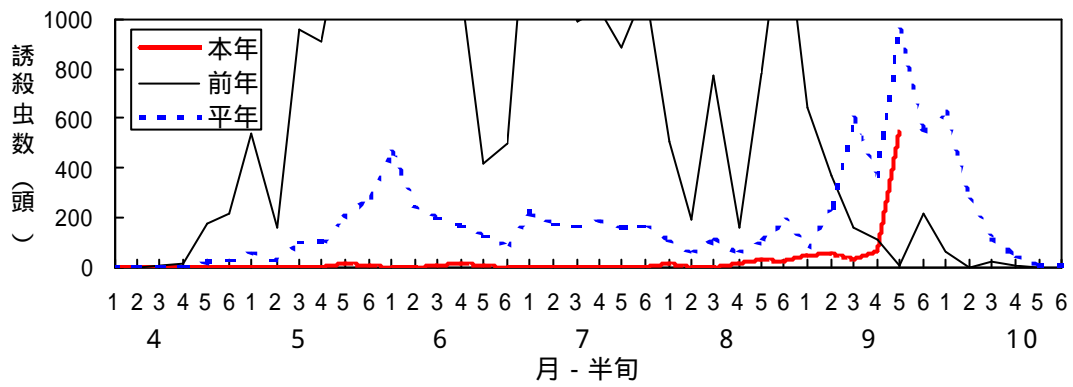
ア 地域によっては、果樹園へ飛来が予想されるので(速報第6号参照)、発生状況に注意し、必要に応じて防除を行う。

イ 収穫期の防除薬剤は、農薬使用基準(収穫前日数・使用回数等)を遵守する。

また、樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意する。



チャバネアオカメムシの予察灯による誘殺虫数の推移 (筑紫野市)



ツヤアオカメムシの予察灯による誘殺虫数の推移 (筑紫野市)

【野 菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 並 やや多い	並 並 並 やや多い
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 少ない	並 並 並
レタス	菌核病 灰色かび病	並 並	並 並
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	並 少ない 少ない 並 やや多い	並 並 並 並 やや多い
ネギ	シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	並 多い	並 多い
野菜共通	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや多い やや多い	やや多い やや多い

・ 平年値 (過去 10 年間の平均) が ない場合は、前年までの平均値を用いた。

【野 菜】

1 イチゴの炭疽病

(*Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による炭疽病)

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病株率は 0.3% (平年：0.3%、前年：0.1%) であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗期に本病が発生したほ場では、本ほでも発生する可能性が高い。

イ 発病を認めた場合は発病部位を早めに除去し、適正に処分する。

ウ 茎葉の濡れている時間が長いと感染、発病しやすいので通風を良くする。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

2 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は3.3%（平年：0.9%、前年：0.3%）であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ハダニは摘葉するとその葉から急速に移動するので、ほ場内に葉を放置せず、ビニル袋等に入れ密閉して処分する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

3 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、被害株率は1.6%（平年：1.1%、前年：2.5%）であった。

イ 朝倉町長淵のフェロモントラップによる誘殺虫数は、8月5半旬～9月2半旬で205頭（平年：266.1頭、前年：303頭）、9月2半旬～9月5半旬で239頭（平年：212.3頭、前年：113頭）であった。

ウ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

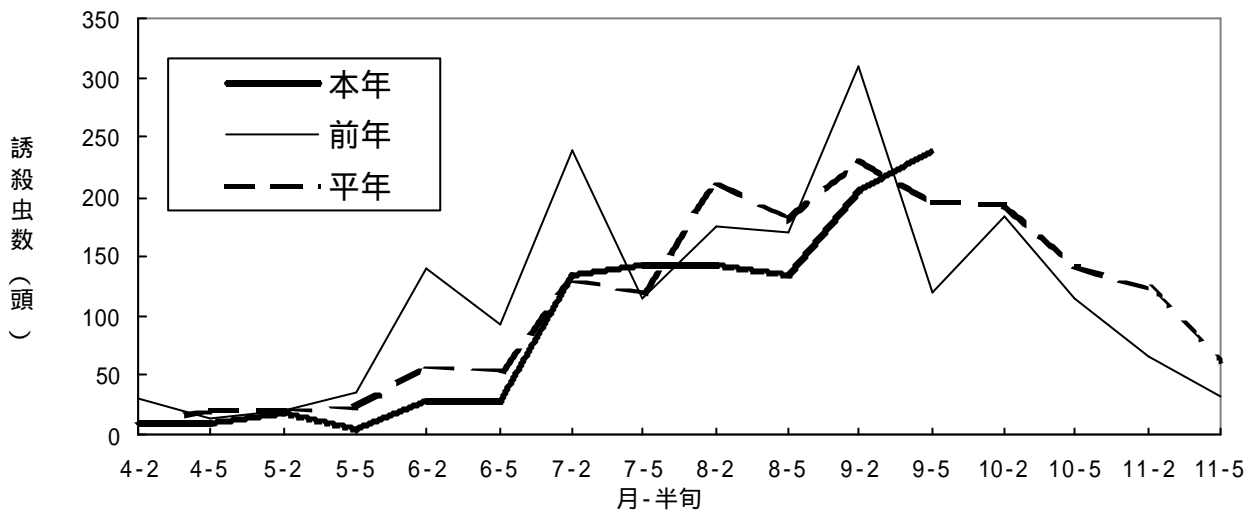
(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ 葉身に産下された卵塊から孵化した幼虫は、そのまま葉身内に食入し内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉町長洲)

4 ネギのネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、被害株率は12.6% (平年：2.6%、前年：9.8%)であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期に防除を徹底する。

イ 収穫終了後にハウス内土壌の表面を1週間程度ビニルで覆い、土壌中の蛹の死滅を図る。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため1mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

5 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果

イチゴの寄生株率は5.0% (平年：2.3%、前年：5.5%)、被害株率は19.0% (平年：12.4%、前年：13.6%)であった。

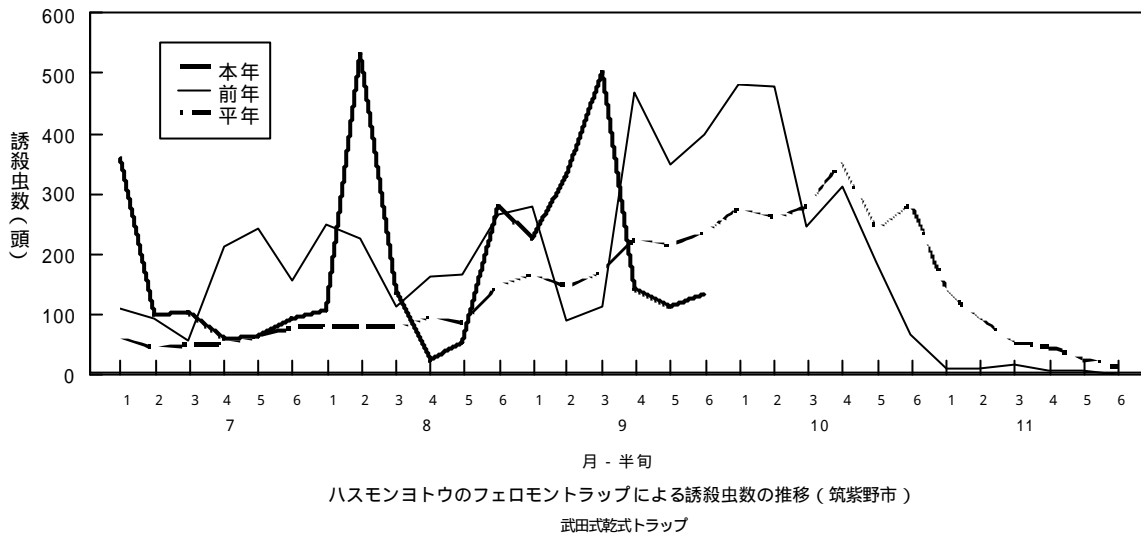
アスパラガスの若茎寄生株率は平均：23.3% (平年：0.4%、前年：0.7%)であった。

イ 筑紫野市のフェロモントラップによる9月5～6半旬の誘殺虫数は245頭 (平年：451頭、前年：750頭)、9月の累計誘殺虫数は1,444頭 (平年：1,164.9頭、前年：1,702頭)であった。

ウ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- イ 卵はりん毛をつけた卵塊で産み付けられ、幼虫は孵化後分散する。
- ウ 幼虫が食害するのは主に葉であるが、イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では、花蕾や果実も食害するので、発生状況に十分注意する。
- エ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。
- オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。



6 野菜共通のオオタバコガ

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果

イチゴの寄生株率は0.6% (平年：0.1%、前年：0.1%)であった。

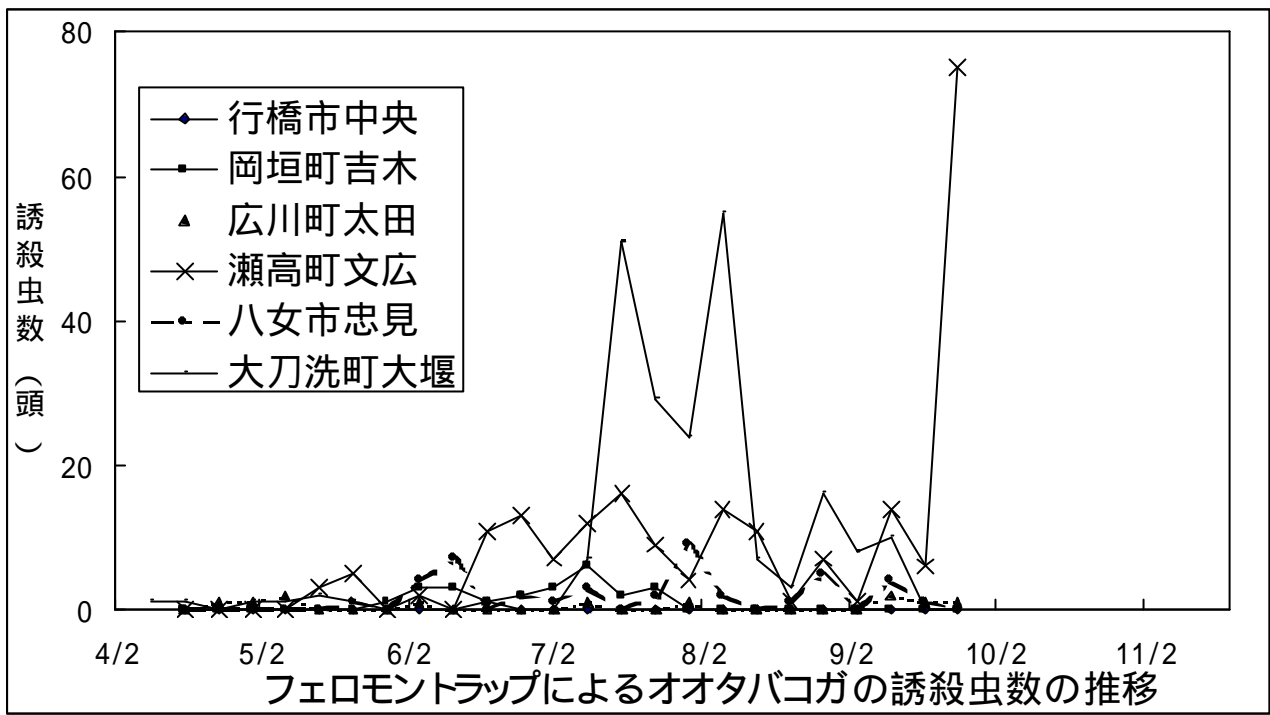
レタスの寄生株率は3.5%であった。

イ 9月17日～9月24日までの瀬高町のフェロモントラップによる誘殺虫数は75頭であった。

ウ 気象予報では、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。
- イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- ウ 中齢幼虫以降になると未成熟果に食入する。
- エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。



10月の気象予報（1か月）

（予報期間9月27日～10月26日）

2003年9月26日

福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変化しますが、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 9月27日～10月3日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 10月4日～10月10日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 10月11日～10月24日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量 (mm)	日照時間 (h)	1週目	2週目	3-4週目
19.4	96.4	166.4	21.3	20.2	18.4

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jpnp.ne.jp